

世界の地域から

フランス ナント市

↑上空から見た、ロワール川の中州「イル・ド・ナント」を中心に広がるナント市
(撮影：V Sarazin)

パリから新幹線TGVで南西へ2時間、大西洋岸のロワール川河口近くに位置し、人口は約27万人、ペイ・ド・ラ・ロワール州の州都であり、かつロワール・アトランティック県の県庁所在地でもある。

かつてはブルターニュ公国の首都で、砂糖貿易などで栄えた。また、アンリ4世が宗教内乱に終止符を打つため「ナントの勅令」を公布した町として日本でもよく知られている。

平成15年度CLAIR国際塾では同市を訪れた。

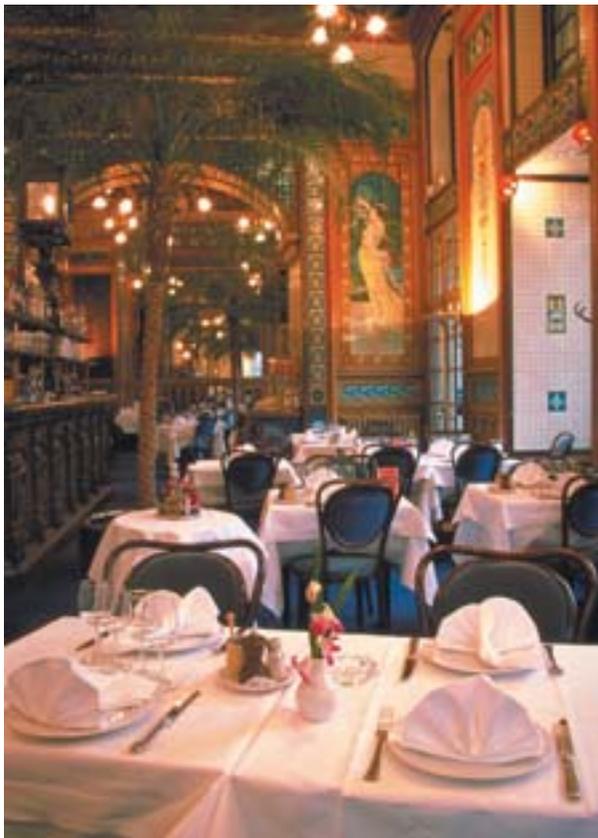
Pays de la Loire





↑ロワール川の支流「エルドル川」。後ろに18世紀の邸宅が見える（撮影：A Delaporte）

↓1895年開店のブラスリー「ラ・シガール」。1964年に歴史的建造物に指定された（撮影：V Sarazin）



↑「リュウ・ユニック」の塔。この場所がかつてビスケット工場だったが、工場が郊外へ移転した後、国立劇場などが入った文化施設に生まれ変わった（撮影：G Arnaud）

↓ナント市はフランスで最初に「トラム（新型路面電車）」を復活させた町である。いったん廃止した路面電車を復活させることについてはさまざまな議論があったが、静かで快適な乗り心地のトラムは瞬間に市民を魅了した（撮影：A Delaporte）





↑毎年3月に開かれる「ナント・カーニバル」の様子。フランスでは2番目に大きなカーニバルで、姉妹都市が招かれる（撮影：V Sarazin）

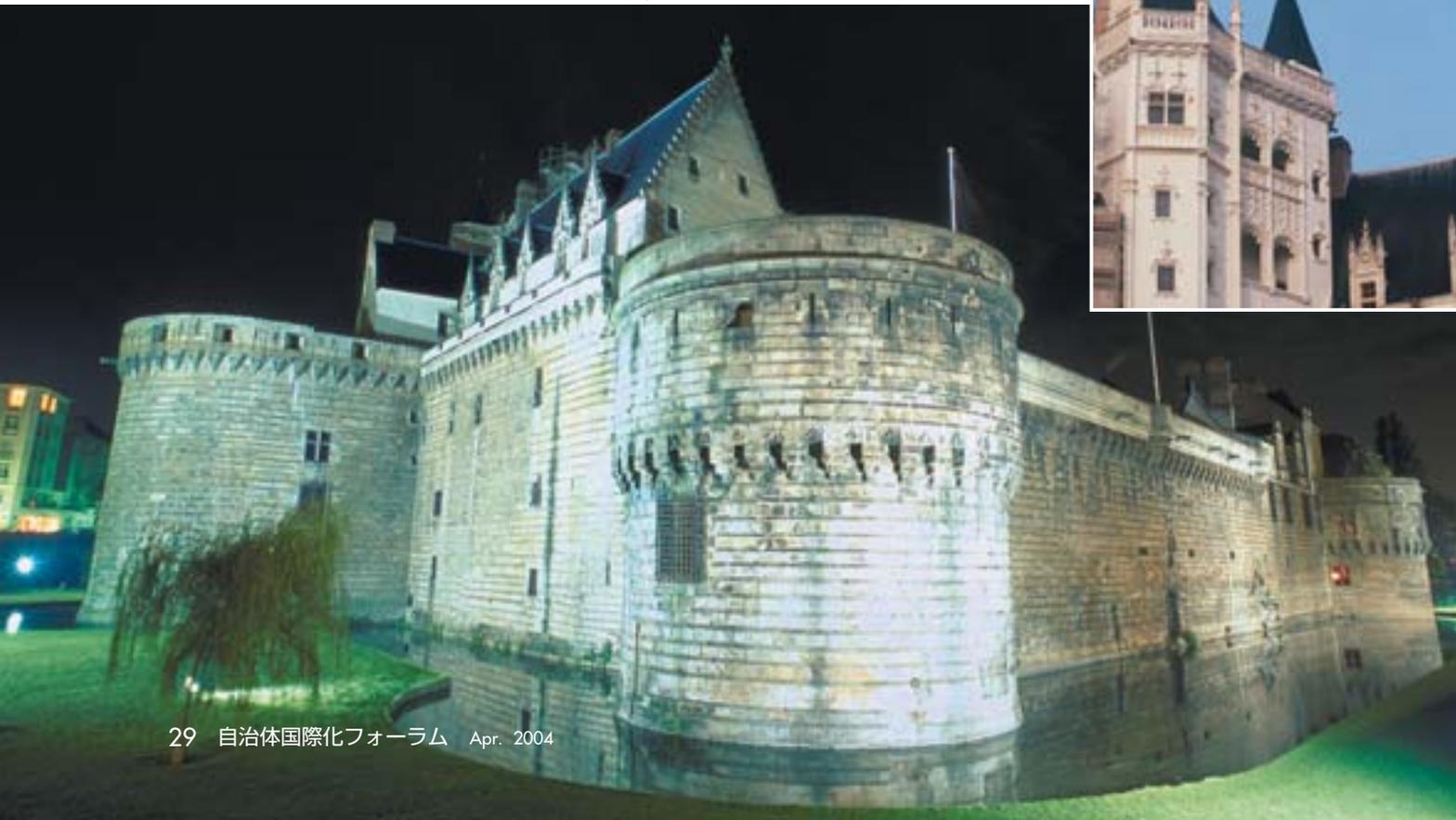


←ナントの「植物園」。19世紀後半に造られた（撮影：A Delaporte）



↓ナントの中心部に建つ「ブルターニュ大公城」。かつてナントはブルターニュ公国の首都であり、フランソワ2世統治下の黄金期に建設された。旧教徒と新教徒の争いに終止符を打つため、ナントの勅令が公布されたのもこの場所である（撮影：A Delaporte）

→同じく「ブルターニュ大公城」（撮影：V Sarazin）





↑18世紀の建物が残る地区「イル・フェドー」
(撮影：G Arnaud)

←「イル・フェドー」地区に残る18世紀の建物
内部 (撮影：A Delaporte)

➡19世紀の美しいショッピング・アーケード「バ
サージュ・ボムレ」。円柱や彫像が古典的な雰
囲気を醸し出している (撮影：D Barbaud)

↓国際会議場 (撮影：A Delaporte)

